

平成 28 年 4 月 6 日

南の風番外号

南部ミニバスケットボール連盟
会 長 藤原 敬一

第47回全国ミニバスケットボール大会の観戦記です。

3月30日（水）の決勝トーナメントの女子の準決、決勝を観戦しました。残念ながら神奈川県代表の男子、菊名チームと女子の戸塚チームは予選突破することが出来ませんでした。

《男子予選》

清和ミニ（三重） 38 - 53 菊名ミニ（神奈川）

菊名ミニ（神奈川） 32 - 38 黒部ミニ（富山）

《女子予選》

鳥取東ミニ（鳥取） 30 - 51 戸塚ミニ（神奈川）

戸塚ミニ（神奈川） 41 - 48 伊那ダイヤモンドツインズ（長野） →※Aブロック優勝

戸塚も菊名も大変惜しかったです。女子の戸塚は、伊那戦では3Q終了時には2点差でした。4Qがもう一息というところででした。男子の菊名は、黒部戦は前半終了時に1点差でリードしていました。やはり4Qが惜しかったです。

両チームの皆さん、たいへんお疲れ様でした。神奈川の代表としてがんばっていただきました。

さて準決勝、昭和ミニ（愛知）対宮の原（栃木）のゲームです。昭和ミニは過去13回全国優勝している強豪です。このゲーム、29対27で宮の原が勝つのですが、昭和の選手のスキルの高さに見るべきものがいくつもありました。

第1に、昭和のマンツーマンです。

- ①オンザコート選手全員が読み、予測に長けている。
- ②ディスタンス、ポジションが絶妙。
- ③ヘルプ&ローテやインサイドヘルプからのリカバリーが素早い。
- ④ポストディフェンスが徹底している。

まず①についてです。ボールマンディフェンスもオフボールマンディフェンスも、相手が何をして来るのかの読みが抜群です。パスが空中にある間のポジション移動が速いのです。練習にしっかり裏打ちされていると感じました。

②です。昭和のボールマンディフェンスのディスタンス基本は、ワンアームから1/2アームでした。常にボールにプレッシャーを掛けられる距離を取り続けていました。また2線～1線、3線～1線といったポジション移動の素早さも見事でした。

③については、①と大きな関わりがあります。ヘルプディフェンスとローテーションは、ミニバスでも今や定番となりました。しかし、さらにボールがパスされた時にリカバリーするところまで、ゲームの中でできるチームは数少ないと思います。昭和の凄さを感じました。

④は今後、どのミニバスチームにも取り入れてほしいと思い取り上げました。ポストディフェンスはコンタクトディフェンスとも呼ばれ、ミニバスの選手にとってハードなディフェンスです。特にディフェンスの方が相手よりサイズがない場合のポジション取りは難しいものです。昭和チームはポストフラッシュに対するバンプが素早く、相手に簡単にポジションを渡しませんでした。バンプの後のフルフロントを維持する力強さも見えました。宮の原の5番（167cm）に対して昭和の4番（157cm）の選手は、ポジションを渡すまいと、ハイポストで必死に戦っていました。

練習時間の関係で、ポストディフェンスまで中々できないチームもあるかと思えます。しかし南の風でも以前取り上げたように、私はミニバスの時代から、コンタクトに慣れる練習はどんどん取り入れるべきだと思います。特に女子の場合、身体接触に慣れることは重要なファクターになります。

ディフェンスの最後です、昭和は2Qを8対0と宮の原をシャットアウトして見せました。当たりの強さと5人の協力が際立っていました。

第2に、昭和のオフェンスです。いくつかありますが紙幅の関係で2つに絞ります。

①シュート後のオフェンスリバウンドの徹底。

②リロケーションパスからのシュートの精度の高さ。

①です。昭和の選手は、シューターもオフボールマンも、シュートが放たれた瞬間、落下点を予測（軌跡の確認）し、**一步踏み込んで跳び込んで**いました。簡単なようですが中々できないことです。リバウンドのボールタッチについては、現在「片手」「両手」のどちらがいいか、意見は分かれています。この件については、次回にします。いずれにしても、昭和の選手は強く跳び込むことを意識して徹底していました。4番の選手は、バックボードにパスする勢いでリバウンドに跳び込んでいました。

②についてです。ポストから外へのパス、あるいはドライブで中を突いて外へのパスはシュートし易いものです。昭和チームだけではなく、全国大会出場のチームの多くは取り入れていました。しかし精度の高さとなると、私が今回観た中では、昭和と後で触れます美木多（大阪）が群を抜いていました。昭和の16番の6年生（137cm）は2回連続で、中からのパスを受け3ポイントに近い距離から決めていました。迷いなく、踏ん切りよく打っていた印象でした。

昭和は残念ながら1ゴール差が負けましたが、我々にマンツーマンの基本や合わせの攻めの大切さをゲームを通して教えてくれました。

Cブロックの決勝について書きます。対戦は大野ミニスポ少（茨城）と美木多ミニ（大阪）でした。

ずばり書きます。美木多の5番（172cm）の凄さです。何がすごいかと言えば、将来性です。プレイがしなやかなのです。センタープレイが中心なのですが、決してパワープレイではないのです。

《しなやかさを支えているもの》

①冷静さ（メンタルの強さ） ②視野の広さ ③ステップ時の重心移動の巧みさ ④身体の柔軟さ

この4つです。驚きです。小学生でここまでできる選手がいようとは。相手は当然ダブルチーム、トリプルチームできます。しかしあわてず、自分が攻められない時は味方にボールを返します。攻める時は、リングをしっかりと見て柔らかいタッチでシュートします。何か元全日本の加藤 貴子選手を見るようでした。そして、彼女は走るのです。足も速くドリブルワークも見事でした。圧倒されました。

また、美木多の17番（143cm）4年生のリロケーションパスからのロングシュート、連続3回も圧巻でした。さすが全国大会です。凄い選手がいました。今年も勉強させてもらいました。

ミニバスのレベルは、年々進化しています。子どもたちの可能性の高さには驚くしかしかありません。